

第 355 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和元年 10 月 1 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] PERKY SOUND FLASH
[放送日時] 令和元年 9 月 21 日 (土) 9:00～9:55
[出演者] 小杉 涼花
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 小野晃司 委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
- [会社] 代表取締役社長 今井学
編成制作本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部制作担当部長 寺田和史

5. 事務局報告

- 上期営業見込みの件
- 浜松大停電から 1 年の件

6. 番組審議

- [対象番組] PERKY SOUND FLASH
[放送日時] 令和元年 9 月 21 日 (土) 9:00～9:55
[出演者] 小杉 涼花
[番組内容] 放送開始 30 年を誇る K-mix 最長プログラム。
小杉涼花が全て 1 マンで番組を進行します。

[聴取・合評での主な意見]

角田副委員長 原稿読みは安定している。しかし「サウンドフラッシュ」という事で曲が多くかかる割には、曲への思いが語られていない。20 代半ばのパーソナリティに「懐かしのゴールデンヒット」は、荷が重すぎるのではないかとせめて、来週の紹介年を予告しても良いのでは？コメントも「かわいい」「すごーい」「え～」の繰り返しで本質的でない。

服部委員 全体的に軽やかで明るい雰囲気。一方でやや早口で、文節の終わりが強いのが気になる。「ギシュラン」コーナーではもう少し深い話を聞くため、インタビュー人数を増やしてほしい。リスナーコミュニケーションの部分では、楽しそうに話すのは好印象だが、共感性は薄い。

加藤委員 明るい声で土曜の午前にぴったり。定型コメントは明晰に話せているが、1時間の番組組み立てには工夫が必要だ。リズム感が欠如している。状況描写、事実描写に終始していて、リスナーとのキャッチボールが足りない。番組コンセプトと彼女の表現したいものにズレがあるのでは？

小野委員 アナウンサーらしく、発声が良く聴き易い。しかし、万人受けを気にしすぎているのか、コーナーが多彩な割に個性が無い。全体的にモノトーンな印象。「粘り」が無い。3曲続けて紹介するコーナーも、いかにもインターネットでキーワード検索したものを、ただかけている印象。

木宮委員長 放送30年という長寿番組だけあって、番組の骨組みはしっかりできている。一方で、音楽としゃべりには検討の余地がある印象だ。原稿読みは上手だが、フリートークになると言葉が「止まる」「詰まる」。「ギシユラン」コーナーでも、もう少し基本情報を知りたかった。告知ポイントが商品なのか、それが飲める店なのかが分かりづらかった。現状、リスナーメールを紹介する時間・数が多いのではないかと。技量的に、準備時間が足りないと感じる。レポーター経験の豊富さから目の前に人がいる場面はとても成長を感じる。次のステップは、人がいない時のコミュニケーション能力の向上だろう。長い番組という事もあり、彼女が番組コンセプトに合わせるべきだと考える。

会社サイド 前回(第354回)では番組コンセプトを遵守した作りに評価を頂いた一方、良い意味でそこから離れる必要性についてご指摘頂きました。今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 令和元年11月5日(火) 11:00~13:00を予定

以上

番組審議会委員長

木宮敬信